

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】平成24年12月6日 (2012.12.6)

【公表番号】特表2011-508546(P2011-508546A)
【公表日】平成23年3月10日 (2011.3.10)
【年通号数】公開・登録公報2011-010
【出願番号】特願2010-540017(P2010-540017)
【国際特許分類】

H 0 4 M 3/56 (2006.01)

H 0 4 N 7/15 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 M 3/56 B

H 0 4 N 7/15 6 1 0

【誤訳訂正書】
【提出日】平成24年10月10日 (2012.10.10)

【誤訳訂正 1】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0 0 0 7
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【 0 0 0 7 】

ステップ 1 0 3 : M C U が、各端末によって送信されたオーディオデータを復号し、より大音量の音を生じるサイトのオーディオデータを選択する。

【誤訳訂正 2】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0 0 3 5
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【 0 0 3 5 】

ステップ 4 0 3 : M C U が、復号オーディオデータの音量に従ってオーディオ混合を必要とする端末を選択する。

【誤訳訂正 3】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0 0 3 7
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【 0 0 3 7 】

本発明の各実施形態において、M C U は、受信した全端末のオーディオデータを一様に復号する必要も、オーディオ混合のためのオーディオデータの複数の必要なチャンネルを選択する必要も、データを符号化する必要もなく、受信したマルチチャンネル分離オーディオ・コーデック・プロトコルのオーディオデータからオーディオパケットの 1 つのチャンネルを直接抽出する。抽出されたオーディオパケットに対応する端末は、オーディオデータの音量に従ってオーディオ固定 (f i x i n g) のために選択された端末である。

【誤訳訂正 4】
【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 3 9

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 3 9 】

復号されないオーディオパケットの複数の抽出チャネルは、再度カプセル化され、一緒にアセンブルされる。MCUと多地点通信を行う端末は、端末1、端末2、端末3、および端末4である。音量に従って選択されたオーディオデータの3つのチャネルは、端末1、端末2、および端末3によって送信された符号化オーディオデータであるものと仮定する。3台の端末それぞれのオーディオデータは、個別チャネルとしてカプセル化され、オーディオ論理チャネルに入れられ、すなわち、この論理チャネル内のオーディオデータは、3つの個別チャネルのデータを含み、次いでデータは、各端末に転送される。すなわち、端末1は、端末2および端末3のオーディオ符号化データから成るオーディオ・データ・パケットを受信する。端末2は、端末1および端末3のオーディオ符号化データから成るオーディオ・データ・パケットを受信する。端末3は、端末1および端末2のオーディオ符号化データから成るオーディオ・データ・パケットを受信する。端末4は、端末1、端末2および端末3のオーディオ符号化データから成るオーディオ・データ・パケットを受信する。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 5

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 5 】

ステップ603：MCU__Aが、復号オーディオデータの音量に従ってオーディオ混合を必要とする端末を選択する。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 8

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 8 】

ステップ606：MCU__Bが復号器を作成し、次いで、音量に従ってMCU__Aのチャネルのオーディオデータの代わりのオーディオデータを選択する。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 4 9

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 9 】

カスケード接続されたMCU__AとMCU__Bが、これらに接続された端末によって送信されたオーディオデータを処理するとき、その処理方法は、MCU__AとMCU__Bの間に1つのチャネルが追加されることを除いて、本発明の第2の実施形態における処理と同じである。特に、2台を超えるMCUがカスケード接続されるときには、さらに多くのチャネルが追加される。したがって、カスケード接続されたMCU__AがMCU__Bにカプセル化オーディオデータを送信すると、MCU__Bは、受信したオーディオデータの音量を、MCU__Bと接続された端末によって送信されたオーディオデータの音量と比較し、比較結果に従って、MCU__Aによって送信されたオーディオパケット内のより小音量

のオーディオデータを、MCU__Bと接続された端末のオーディオデータで置換する。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0050

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0050】

図5に示すように、MCU__Aと接続されている端末A1、端末A2、端末A3、および端末A4の中から選択されるオーディオパケットは、端末A1、端末A2、および端末A3のオーディオデータを含むものと仮定する。オーディオパケットを受信した後で、MCU__Bは、オーディオパケットの音量を比較する。MCU__Bと接続された端末B1のオーディオデータの音量が端末A1のオーディオデータの音量より大きい場合、MCU__Bは、オーディオパケット内の端末A1のオーディオデータを端末B1のオーディオデータで置換する。

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0053

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0053】

本発明の第3の実施形態では、すべての端末がマルチチャネル分離オーディオ・コーデック・プロトコルをサポートしているとき、送信側のMCUは、送信側の端末のためのオーディオ符号器を作成し、受信側のMCUは受信側の端末のためのオーディオ復号器を作成する。したがって、カスケード接続されたMCUの数にかかわらず、送信側のMCUの端末上のデータを符号化し、受信側のMCUの端末上のデータを復号しさえすればよい。全オーディオ処理プロセスが、たった1回のオーディオ符号化/復号動作しか伴わない。送信側のMCUの端末はオーディオ符号化データを送信する。送信側のMCUがオーディオデータをオーディオパケットにカプセル化した後で、オーディオパケットは、複数のカスケード接続されたMCU間で伝送される。パケットが受信側のMCUに送信されるとき、受信側のMCUは、そのパケットを復号する必要はなく、マルチチャネル分離オーディオ・コーデック・プロトコルに従って、オーディオパケットから1つのチャネルのオーディオデータを直接抽出する。受信側のMCUは、対応するオーディオデータを、受信側のMCUのより大音量の端末によって送信されたオーディオデータで置換し、そのデータを受信側のMCUの端末に送信し、受信側のMCUの端末は置換されたオーディオパケットを復号する。

【誤訳訂正 10】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0054

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0054】

必ずしもすべての端末がマルチチャネル分離オーディオ・コーデック・プロトコルをサポートしているとは限らない場合、送信側のMCUは、送信側の端末のためのオーディオ符号器を作成する必要はないが、受信側のMCUは、受信側の端末のためのオーディオ符号器および復号器を作成する。さらに受信側のMCUは、カスケード式に送信される受信オーディオパケットを復号し、パケットを置換し、それらのパケットを再度符号化して端末間の互換性を達成する必要がある。したがって、カスケード接続されたMCUの数にか

かわらず、オーディオパケットは、受信側のMCUを除くMCU間で伝送される間に、いかなる符号化、復号操作も受けなくてよい。したがって、カスケード式伝送の全オーディオ処理プロセスが、たった2回の符号化/復号動作しか伴わない。すなわち、送信側のMCUの端末はオーディオ符号化データを送信し、送信側のMCUはそのオーディオ符号化データをオーディオパケットにカプセル化し、次いでオーディオパケットは複数のMCU間でカスケード式に送信される。パケットが受信側のMCUに送信されるときには、マルチチャネル分離オーディオ・コーデック・プロトコルがサポートされていないため、受信側のMCUは、オーディオパケットを復号し、オーディオパケット内のより小音量のオーディオデータを、受信側のMCUの端末からのより大音量のオーディオデータで置換する必要がある。受信側のMCUは、置換されたオーディオデータを再度復号し、そのデータを受信側のMCUの端末に送信する。受信側のMCUの端末は、オーディオパケットを受信し、それを復号する。

【誤訳訂正 1 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0059

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0059】

ステップ803：MCUが、復号オーディオデータの音量に従ってオーディオ混合を必要とする端末を選択する。

【誤訳訂正 1 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0069

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0069】

ステップ1003：MCU__Aが、復号オーディオデータの音量に従ってオーディオ混合を必要とする端末を選択する。

【誤訳訂正 1 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0071

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0071】

ステップ1005：MCU__Bが、復号器を作成し、次いで、音量に従ってMCU__Aのオーディオデータの代わりのオーディオデータを選択する。

【誤訳訂正 1 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0074

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0074】

本発明の第5の実施形態では、すべての端末が複数のオーディオ論理チャネルをサポートしているとき、送信側のMCUは、送信側の端末のためのオーディオ符号器を作成し、受信側のMCUは、受信側の端末のためのオーディオ復号器を作成する。したがって、カ

スケード接続されたMCUの数にかかわらず、送信側のMCUの端末上でデータを符号化し、オーディオ混合の前に受信側のMCUの端末上で複数のオーディオチャネルから送信されたオーディオデータを復号しさえすればよい。全オーディオ処理プロセスが、たった1回のオーディオ符号化/復号動作しか伴わない。すなわち、送信側のMCUの端末は、オーディオ符号化データを送信する。送信側のMCUは、複数のオーディオ論理チャネルを介してカスケード式に、複数のMCU間でオーディオデータを伝送する。オーディオデータが受信側のMCUに送信されるとき、受信側のMCUは、データを復号しなくてもよく、複数のオーディオ論理チャネルの能力に従って、複数の論理チャネルのオーディオデータを、受信側のMCUのより大音量の端末によって送信されたオーディオ論理チャネルのオーディオデータで置換し、次いでそのデータを受信側のMCUの端末に送信する。受信側のMCUの端末は、置換後に複数のオーディオ論理チャネルを介して送信されたオーディオデータの複数のチャネルを復号する。

【誤訳訂正15】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0076

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0076】

したがって、カスケード接続されたMCUの数にかかわらず、オーディオパケットは、受信側のMCUを除くMCU間で伝送される間にいかなる符号化操作も復号操作も受けなくてよい。したがって、カスケード接続送信の全オーディオ処理プロセスが、たった2回の符号化/復号動作しか伴わない。すなわち、送信側のMCUは、複数のオーディオ論理チャネルを介して複数のMCU間でオーディオデータを伝送する。データが受信側のMCUに送信されるとき、受信側のMCUは、複数のオーディオ論理チャネルをサポートしていないため、複数のオーディオ論理チャネルのオーディオデータを復号し、複数のオーディオチャネルのオーディオデータ内のより小音量のオーディオデータを、受信側のMCUの端末からのより大音量のオーディオデータで置換する必要がある。受信側のMCUは、オーディオデータの置換された複数のチャネルを再度符号化し、そのデータを受信側のMCUの端末に送信する。受信側のMCUの端末はオーディオパケットを受信し、それを復号する。

【誤訳訂正16】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0080

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0080】

ステップ1203：MCU__Aが、復号オーディオデータの音量に従ってオーディオ混合を必要とする端末を選択する。

【誤訳訂正17】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0083

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0083】

ステップ1206：MCU__Bが、音量に従い、MCU__Aから受け取られたオーディオデータの複数のチャネルと、MCU__Bの端末から受け取られたオーディオデータの複数のチャネルの中からオーディオ混合を必要とするオーディオデータを選択する。

【誤訳訂正 18】**【訂正対象書類名】明細書****【訂正対象項目名】0097****【訂正方法】変更****【訂正の内容】****【0097】**

さらに、オーディオデータの複数のチャンネルが選択され、次にオーディオ論理チャンネルで転送されるオーディオパケットにカプセル化される（すなわち、獲得ユニット1410によって獲得されたオーディオ能力がマルチチャンネル分離オーディオ・コーデック・プロトコルのサポートを示す）場合、転送ユニット1420は（図14には示されていないが）、

オーディオデータの音量に従ってオーディオ混合のための複数の端末のオーディオデータを選択するように適合された選択ユニットと、

複数の端末の個別チャンネル内のオーディオデータを抽出するように適合された取得ユニットと、

抽出されたオーディオデータをパケットにカプセル化し、次いで、そのパケットを、オーディオ論理チャンネルを介して各端末に送信するように適合された送信ユニットと、を含む。

【誤訳訂正 19】**【訂正対象書類名】明細書****【訂正対象項目名】0098****【訂正方法】変更****【訂正の内容】****【0098】**

オーディオデータの複数のチャンネルが選択され、次にオーディオ論理チャンネルで転送されるオーディオパケットにカプセル化される（すなわち、獲得ユニット1410によって獲得されたオーディオ能力がマルチチャンネル分離オーディオ・コーデック・プロトコルのサポートを示す）場合であり、制御サーバが複数のカスケード接続された制御サーバの中の送信側制御サーバである場合、転送ユニット1420は（図14には示されていないが）、

オーディオデータの音量に従ってオーディオ混合のための複数の端末のオーディオデータを選択するように適合された選択ユニットと、

複数の端末の個別チャンネル内のオーディオデータを抽出するように適合された取得ユニットと、

抽出されたオーディオデータをパケットにカプセル化し、次いでそのパケットを、カスケード式にオーディオ論理チャンネルを介して受信側制御サーバに送信するように適合された送信ユニットと、を含む。

【誤訳訂正 20】**【訂正対象書類名】明細書****【訂正対象項目名】0099****【訂正方法】変更****【訂正の内容】****【0099】**

オーディオデータの複数のチャンネルが選択され、次にオーディオ論理チャンネルで転送されるオーディオパケットにカプセル化される場合であり、制御サーバが複数のカスケード接続された制御サーバの中の受信側制御サーバである場合、転送ユニット1420は（図

14には示されていないが)、

音量に従い、送信側制御サーバによって送信されたオーディオデータの代わりの受信側のオーディオデータを選択するように適合された選択ユニットと、

置換されたオーディオデータをパケットにカプセル化し、次いでそのパケットを、オーディオ論理チャネルを介して各端末に送信するように適合された送信ユニットと、を含む。

【誤訳訂正21】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0100

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0100】

オーディオデータの複数のチャネルが複数のオーディオ論理チャネルで転送される(すなわち、獲得ユニット1410によって獲得されたオーディオ能力が複数のオーディオ論理チャネルのサポートを示す)場合、転送ユニット1420は(図14には示されていないが)、

オーディオデータの音量に従ってオーディオ混合のための複数の端末のオーディオデータを選択するように適合された選択ユニットと、

複数の端末のオーディオデータを、複数のオーディオ論理チャネルを介して各端末に直接送信するように適合された送信ユニットとを含む。

【誤訳訂正22】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0101

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0101】

オーディオデータの複数のチャネルが複数のオーディオ論理チャネルで転送される(すなわち、獲得ユニット1410によって獲得されたオーディオ能力が複数のオーディオ論理チャネルのサポートを示す)場合であり、制御サーバが、複数のカスケード接続された制御サーバの中の送信側制御サーバである場合、転送ユニット1420は(図14には示されていないが)、

オーディオデータの音量に従ってオーディオ混合のための複数の端末のオーディオデータを選択するように適合された選択ユニットと、

複数の端末のオーディオデータを、カスケード式に複数のオーディオ論理チャネルを介して受信側制御サーバに送信するように適合された送信ユニットと、を含む。

【誤訳訂正23】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0102

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0102】

オーディオデータの複数のチャネルが複数のオーディオ論理チャネルで転送され、制御サーバが、複数のカスケード接続された制御サーバの中の受信側制御サーバである場合、転送ユニット1420は(図14には示されていないが)、

音量に従い、送信側制御サーバによって送信されたオーディオデータの代わりの受信側

のオーディオデータを選択するように適合された選択ユニットと、

置換されたオーディオデータを、複数のオーディオ論理チャネルを介して各端末に直接送信するように適合された送信ユニットと、を含む。

【誤訳訂正 2 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 0 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 0 3】

制御サーバが、カスケード接続された複数の呼のチャネルのための複数の制御サーバの中の送信側制御サーバである場合、転送ユニット 1 4 2 0 は（図 1 4 には示されていないが）、

オーディオデータの音量に従ってオーディオ混合のための複数の端末のオーディオデータを選択するように適合された選択ユニットと、

複数の端末のオーディオデータを、カスケード式に、各端末に対応するオーディオ・プロトコル・ポートから受信側制御サーバの対応するポートに送信するように適合された送信ユニットと、を含む。

【誤訳訂正 2 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 0 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 0 4】

制御サーバが、カスケード接続された複数の呼のチャネルのための複数の制御サーバの中の受信側制御サーバである場合、転送ユニット 1 4 2 0 は（図 1 4 には示されていないが）、

音量に従い、送信側制御サーバから受け取られたオーディオデータと当該受信側のオーディオデータの中から、オーディオ混合のためのオーディオデータの複数のチャネルを選択するように適合された選択ユニットと、

オーディオデータの複数のチャネルのためのオーディオ混合を行い、そのデータを各端末に送信するように適合された送信ユニットと、を含む。

【誤訳訂正 2 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 0 6

【訂正方法】変更

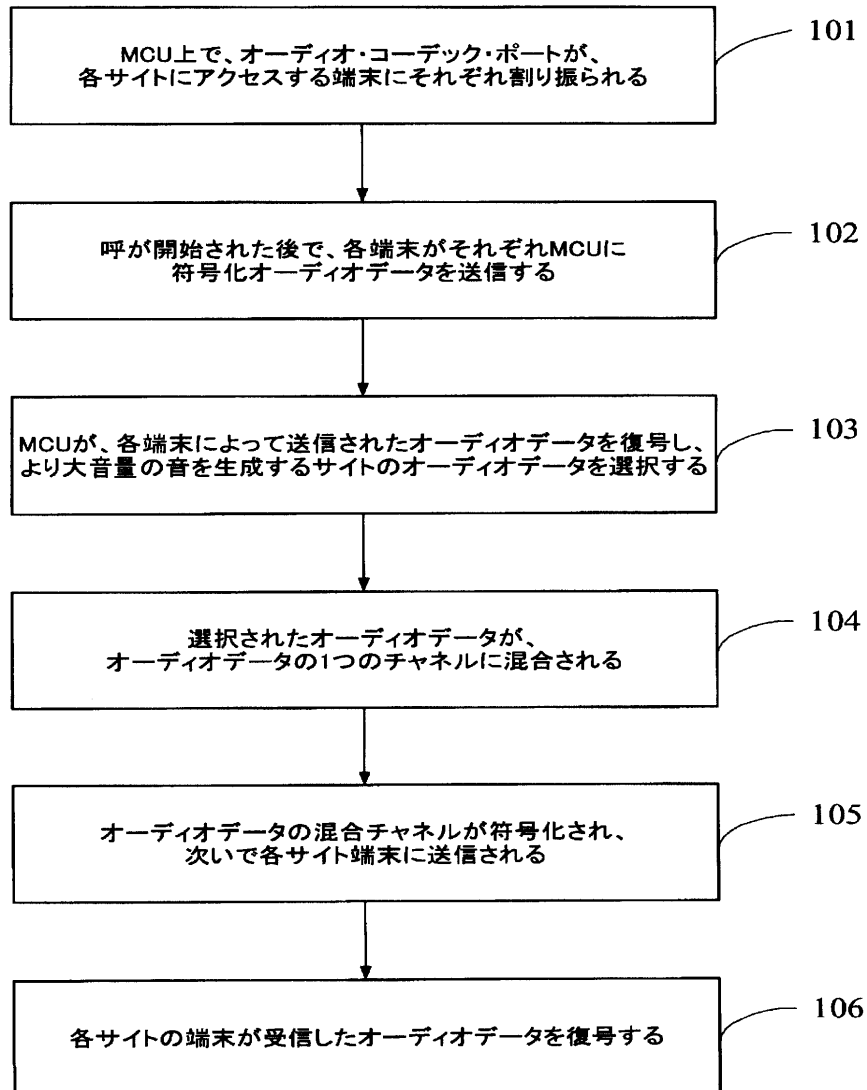
【訂正の内容】

【0 1 0 6】

以上の各実施形態において、制御サーバが、音量に従ってオーディオ混合のための端末を選択することは注目に値する。実際には、オーディオ混合のための端末は、他の事前設定ポリシーに従って、例えば、端末の呼識別子に従って（特殊な識別子の端末が選択されるべき端末である）、あるいは端末の呼の順序に従って（より早く発呼する端末が選択されるべき端末である）選択され得る。

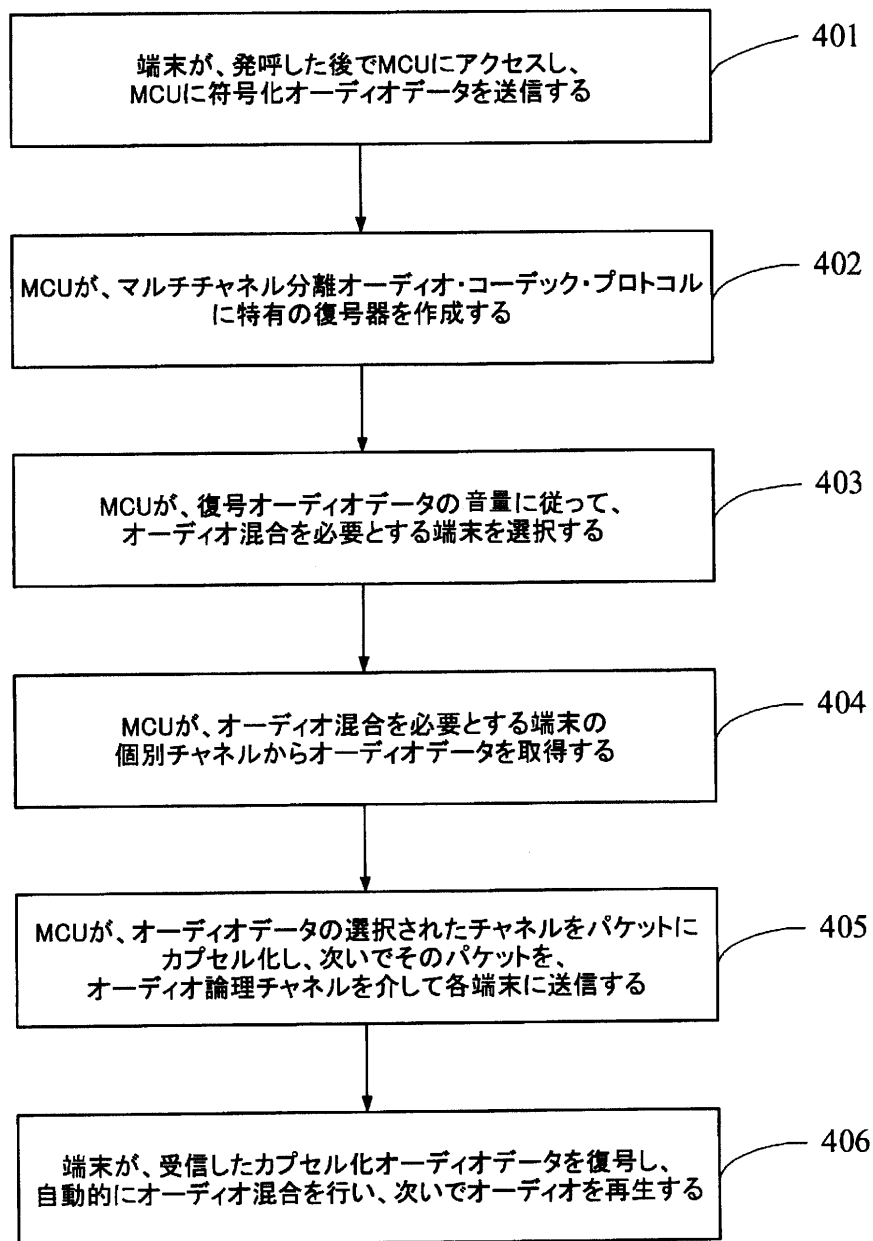
【誤訳訂正 2 7】

【訂正対象書類名】図面
【訂正対象項目名】図 1
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【図 1】



【誤訳訂正 2 8】
【訂正対象書類名】図面
【訂正対象項目名】図 4
【訂正方法】変更
【訂正の内容】

【 図 4 】



【 誤 訳 訂 正 2 9 】

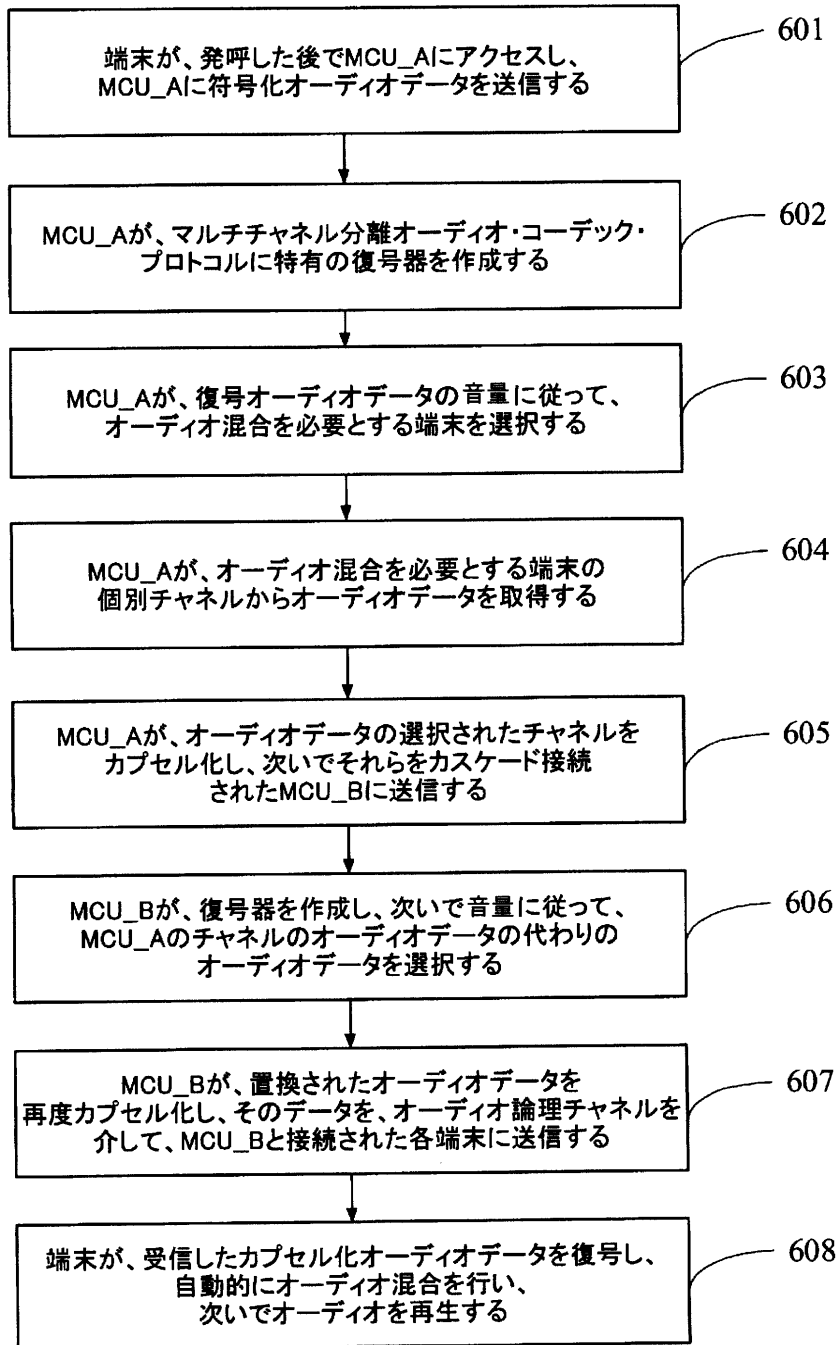
【 訂 正 対 象 書 類 名 】 図 面

【 訂 正 対 象 項 目 名 】 図 6

【 訂 正 方 法 】 変 更

【 訂 正 の 内 容 】

【図 6】



【誤訳訂正 3 0】

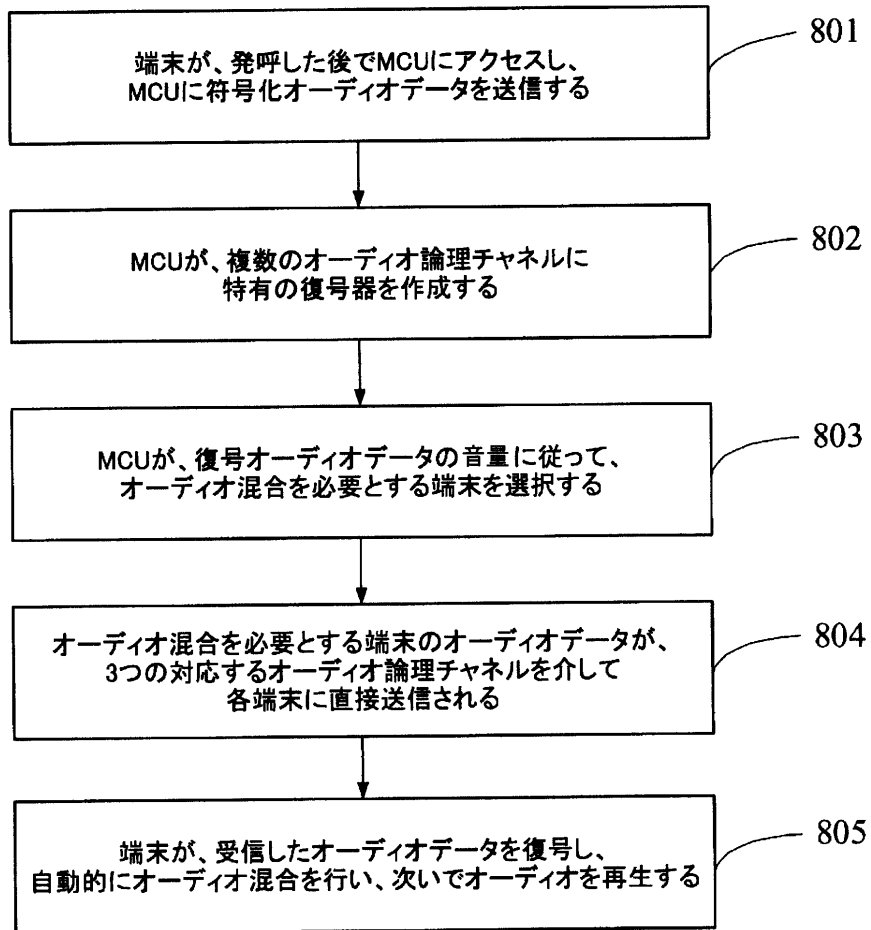
【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 図 8 】



【 誤 訳 訂 正 3 1 】

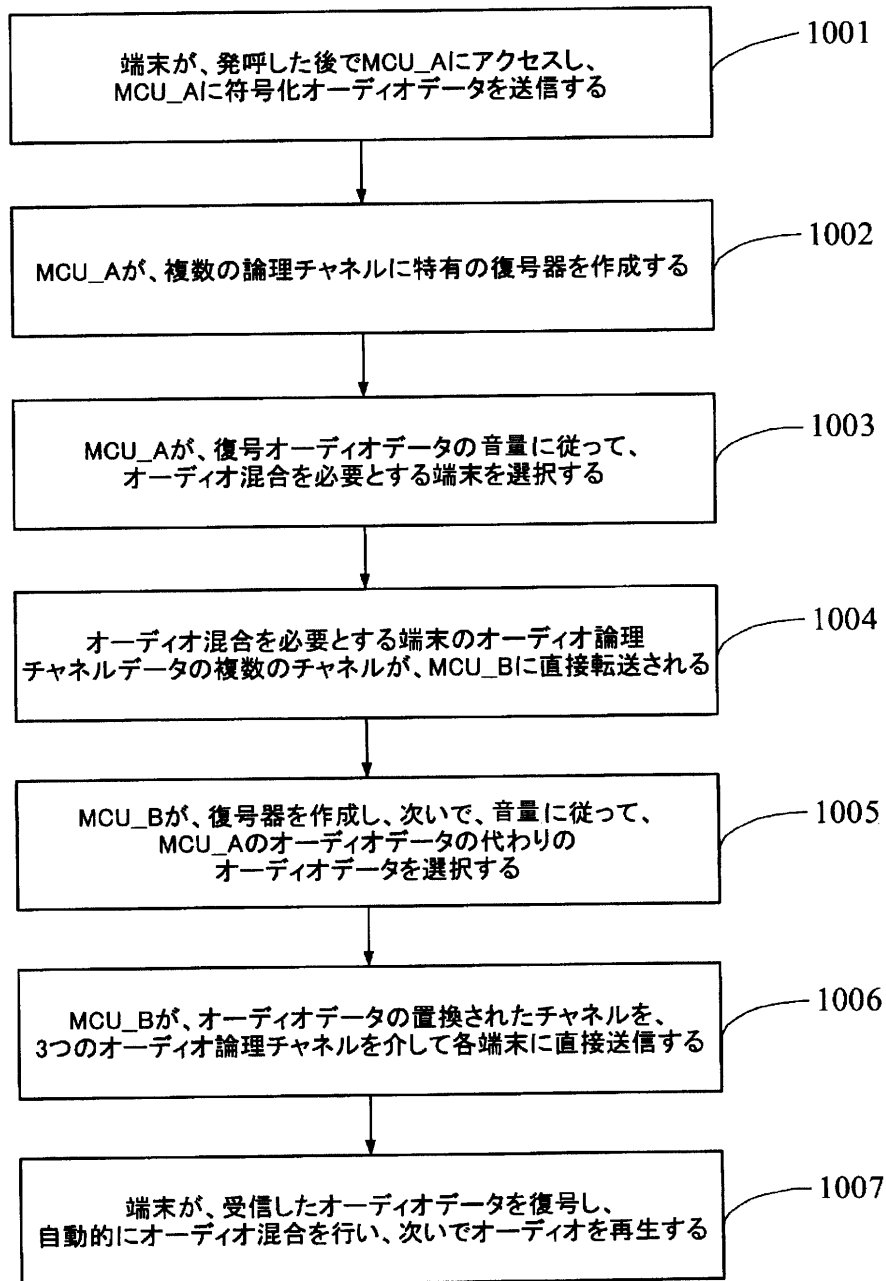
【 訂 正 対 象 書 類 名 】 図 面

【 訂 正 対 象 項 目 名 】 図 1 0

【 訂 正 方 法 】 変 更

【 訂 正 の 内 容 】

【図 10】



【誤訳訂正 3 2】

【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図 1 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図 12】

